

アユ資源の状況について

1. 魚探による資源調査

- 水深30m等深線付近の周回コースの魚探調査の結果、5月の魚群数は109群（平年比30%）となった（図1）。平年に比べると低位ではあるが、今年の3、4月の結果（魚群数4~14群、平年比3~10%）と比較すると魚群数、平年比ともにやや増加している（図2）。

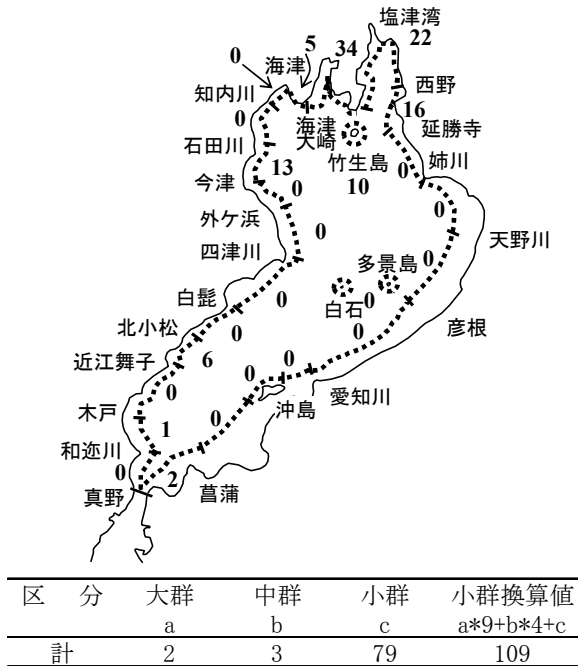


図1. 令和5年5月魚探調査結果

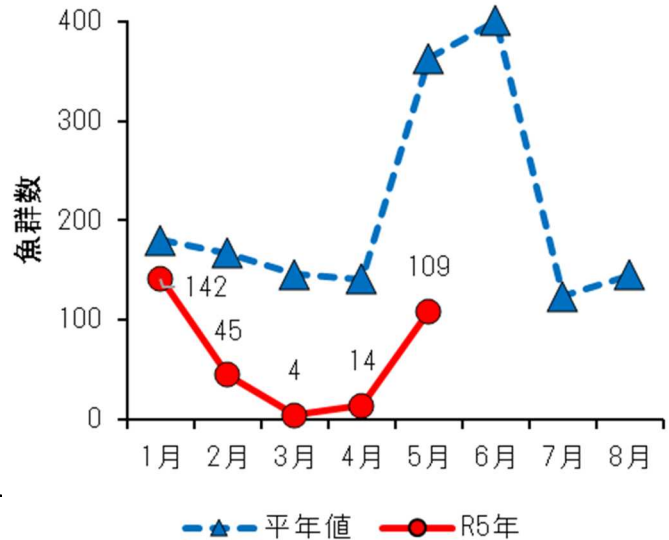


図2. 令和5年の魚探調査結果の推移

2. 単位努力量あたり漁獲量

- エリ1統あたりの漁獲量を旬別にみると、12月から4月にかけて減少傾向にあり、特に3月下旬から4月下旬には低水準であった（図3）。一方、5月上旬には増加に転じている。

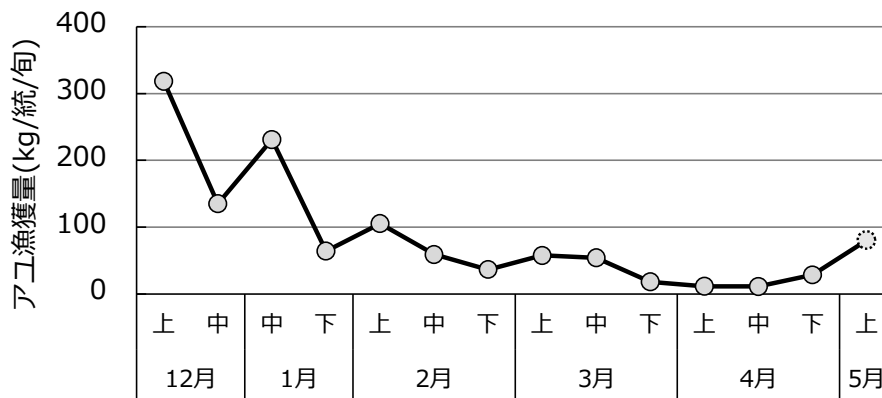


図3. 令和5年エリの旬別1統あたり漁獲量

※令和4年12月から令和5年5月までの漁獲量データが揃っている漁協のデータのみを用いて算出した。また、5月上旬は5月8日あるいは5月9日までの漁獲量から算出した。

3. 漁獲物体型調査

・令和5年エリ漁獲魚の平均体長は漁期を通して平均値を上回っており、特に4月以降は平均値を約3mm上回る高い水準となっている（図4）。一方、栄養状態を表す肥満度は漁期当初から平均値を下回っており、3月から4月にかけては平均値程度まで上昇したものの、5月には再び平均値を下回っている（図5）。ただし、漁期前半の肥満度が低かった令和4年や3月以降に著しく肥満度が低下した平成24年と比べると、今年の肥満度低下の程度は大きくない。月別の体長組成についてみると、4月、5月に大型の個体の割合が高くなっており、特にヤナにおいて顕著である（図6）。

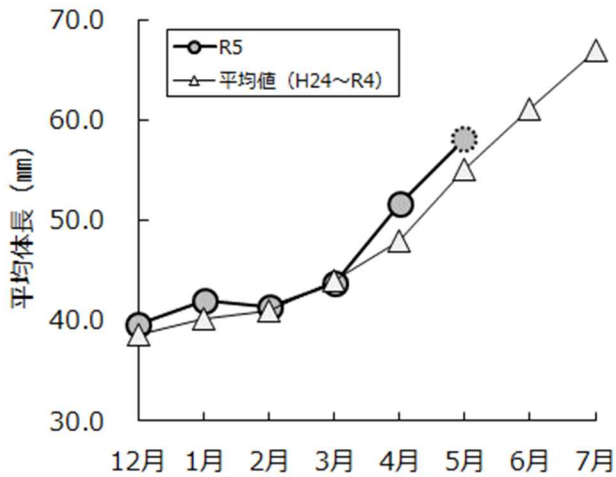


図4. 令和5年エリ漁獲魚の平均体長

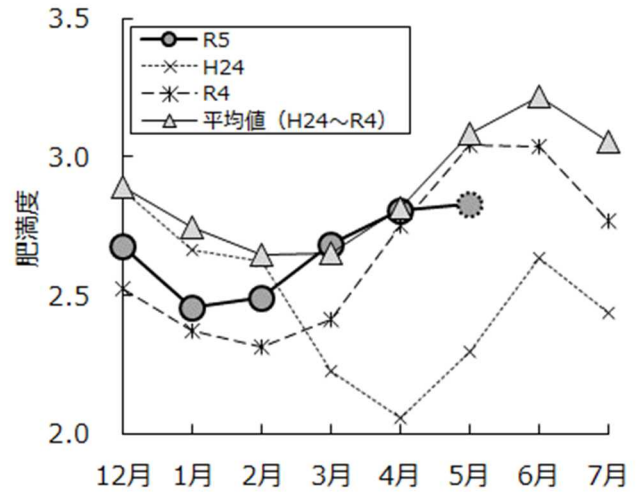


図5. 令和5年エリ漁獲魚の肥満度

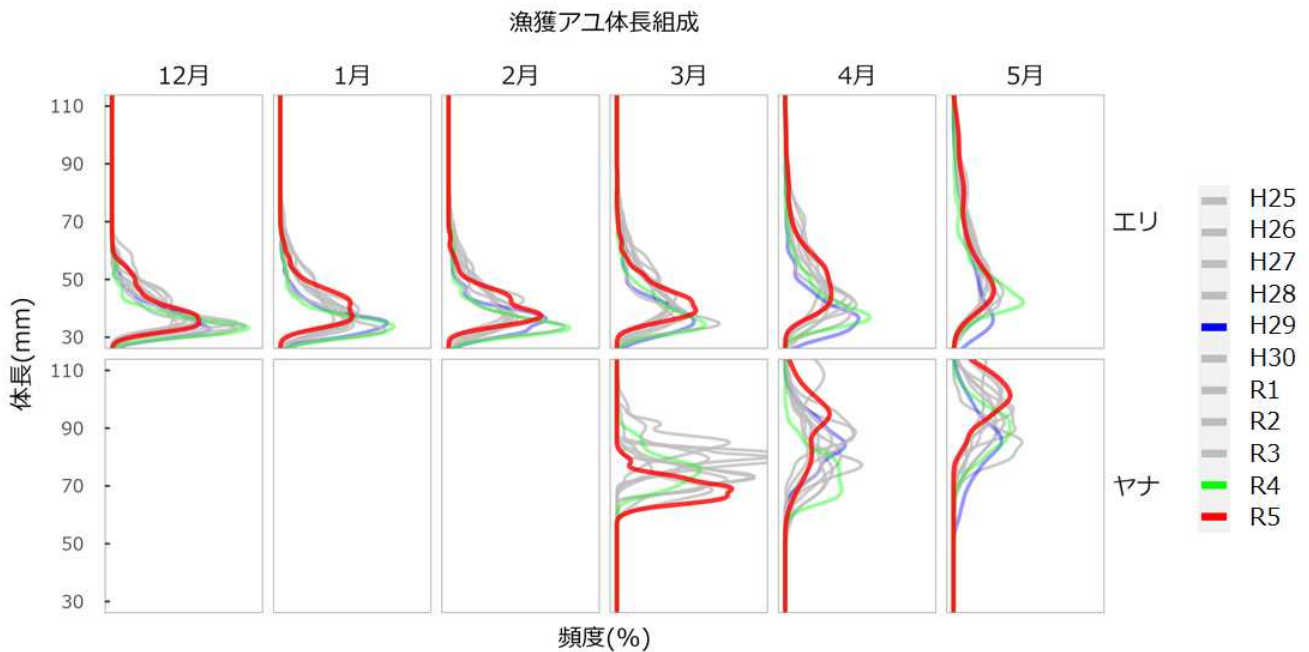
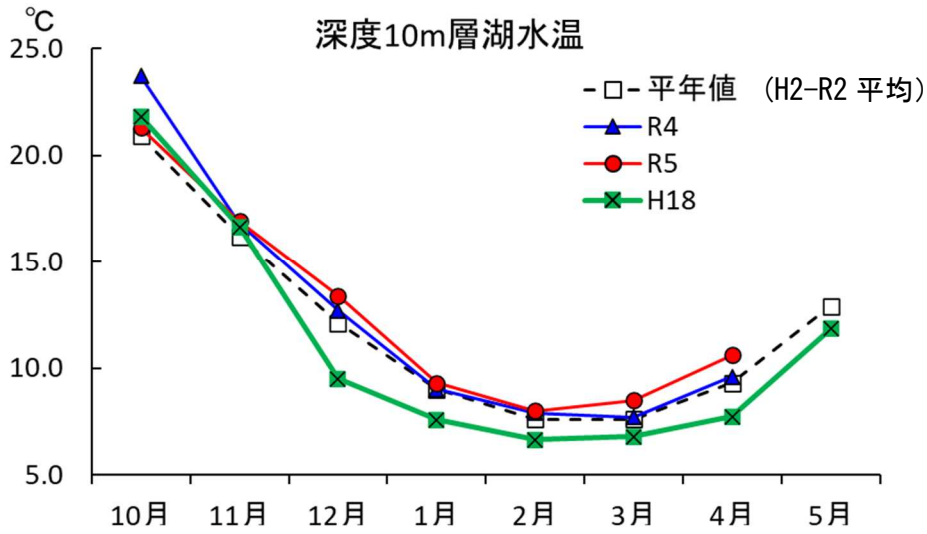


図6. 漁獲アユ体長組成

※令和5年5月は体長、肥満度ともに上旬の結果のみを用いた暫定値。

4. 水温、プランクトン

- 前年秋以降の水温は、平年を上回る状況で推移しており、最低水温は2月の8.0℃であった。なお、冬季に大規模な減耗が生じた2006年(H18)の最低水温は6.6℃であった。



- ケンミジンコ類は、平年を上回る密度で推移。
- 大型ミジンコ類は、1月と2月に密度が平年を大きく下回ったが、3月には平年並みに回復。4月には大幅に増加した。

